

二中コミュニティ・スクールだより

～市川市立第二中学校学校運営協議会～
「夢・命・絆」

令和4年度第3号
(通算第13号)
会長 小林 俊之
(文責 野手 裕之)

「令和4年度第3回学校運営協議会」報告

令和4年11月11日(金)に、令和4年度第3回学校運営協議会が、委員10名の出席のもとで開催されました。なお、今回は、委員による学校(子どもたち)の様子を把握することが中心でした。

今回は、12月9日(金)に「教職員の任用」を中心に協議する予定です。

- 次第**
1. 授業参観
 2. 防災について
 3. 給食試食
 4. 報告及び意見交換
 5. その他

◎小林会長のあいさつ
お忙しい中、第3回の学校運営協議会にご出席いただきありがとうございます。

本日は、ご案内のとおり、授業参観ということで、子どもたちの様子を見ることを楽しみにしております。また、給食の試食も楽しみなところですが、こういったことを通じて、今後の協議にもいかしていきたいと思ひます。

◎石田校長のあいさつ
本日は、お越しいただきありがとうございます。多くの保護者の方に足を運んでいただきたいということで、昨日から明日までの3日間、オープンスクールとしました。これからも、多くの方に学校の様子を見ていただけるように、オープンスクールを実施していきたいと考えております。

二中雑草対策特別部隊の「るる」と「らら」



「とても面倒見のいい二中は居心地がいい」といっているように感じました。

1. 授業参観

それぞれの教室を回って、授業の様子を拝見しました。熱心に授業を受けている中学生の姿を見て、とても嬉しく感じました。



3年生の音楽の様子



美術部の展示をみる委員の様子

2. 防災について(避難所運営ゲーム「HUG」¹⁾)

協議会委員が、三和商事株式会社²⁾の方をお招きして、「避難所運営ゲーム(HUG)」を通じて、避難所運営について知見を深めました。



3. 給食試食



メニューは、「ジャコ入りわかめご飯、白玉入りけんちん汁、からあげ、リンゴゼリー、牛乳」でした。普段、濃い味付のものを食べていると薄く感じますが、子どもたちの栄養などにとっても配慮されたおいしい給食でした。おいしく温かい給食が食べられることは、とても大切だと感じました。

星空観望のご案内
12月10日(土)に、恒例の星空観望を菅野公民館で開催します。今回は土星と木星を見ます。詳細は後日配布するチラシをご覧ください。ちなみに、木星の大赤斑はあと50年後くらいにはなくなってしまうとか、土星の輪は1億年後にはなくなってしまうとか。

二中フェスティバル開催!

10月21日(金)に、「二中フェスティバル」が生徒主体で開催されました。体育館で、歌に、演奏に、ダンスに、さまざまなパフォーマンスが行われました。

一生懸命にパフォーマンスを披露する子どもたち、それを応援している子どもたち、そして、運営に携わっている子どもたちの姿に、感動するとともに、これからも、大好きな二中学生のことを支えていきたいと、強く感じました。



¹⁾ 「HUG(ハグ)」については静岡県地震防災センターのホームページを参照ください。
<https://www.pref.shizuoka.jp/bousai/e-quakes/study/hinanjyo-hug.html>

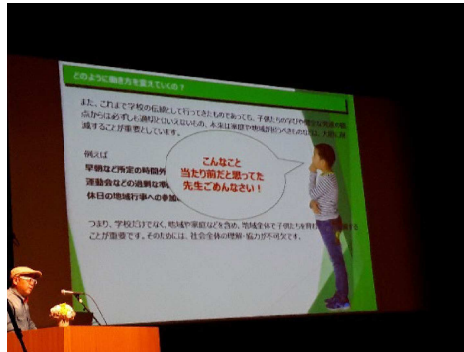
²⁾ <https://e-sanwa.jp/corporate/>

P T A 研究大会について

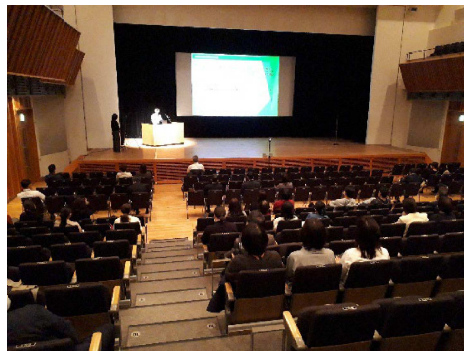
11月2日（水）に、行徳文化ホール I&I において、市川市 P T A 連絡協議会による「研究大会」が行われました。午前の部では会場とオンライン配信で研究発表が実施され、午後の部では会場参加者による交流会（意見交換）がありました。午前、午後ともに、人数制限の中でもたくさんの方が参加されました。

午前の研究発表では、「先生だって働き方改革！！」をテーマに、研修部会の方々が調べた結果が発表されました。

発表において、先生方の労働時間などをはじめとする課題についてさまざまな調査結果の紹介があり、そのような大変な中で、先生たちは、教員としてのやりがいを、子どもの成長を感じた時（79.4%）、子どもの笑顔を見た時（52.8%）、子どもと感動を分かち合えた時（45.8%）に感じていること、そして、私たちが当たり前だと思っている教育が、そのような先生の思いからの、献身的な努力と犠牲によって成り立っていることなどが、報告されました。



そのような状況を踏まえて、学校や先生に対して関心をもつことの大切さや、子どもたちのために先生が行っている業務の中で保護者や地域が負担できるものを引き受けることの必要性などが報告されました。



午後の交流会「ブロックを越えた討議」の中で、田中教育長から「本日は、皆様お一人お一人のお話をお伺いして市川市の教育に反映させていきたいと思っております。よろしくお願いたします。」というお話がありました（下の写真は、田中教育長も参加したグループの話し合いの様子）。



交流会では保護者と教員合わせて約90名の参加者が、16グループに分かれて、それぞれの P T A の課題や悩みなどについて意見交換が行われました。多くの参加者が「参考になった」ということでした。



午前の部の研究発表については、後日、動画を視聴できるようになります。「P連だより」や次号の「コミスクだより」でお知らせいたしますので、ぜひ、ご覧ください。

「生きる力」と非認知能力

中央教育審議会「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について（第一次答申）」（平成8年7月10日）において、「我々はこれからの子供たちに必要となるのは、いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、また、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性であると考えた。たくましく生きるための健康や体力が不可欠であることは言うまでもない。我々は、こうした資質や能力を、変化の激しいこれからの社会を「生きる力」と称することとし、これらをバランスよくはぐくんでいくことが重要であると考えた。」と示されています。

そして、現行の「学習指導要領」（平成29・30・31年改訂）の基礎となった中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月21日）においても、「これからの学校教育においては、『生きる力』の現代的な意義を踏まえてより具体化し、教育課程を通じて確実に育むことが求められている。」と示されています。

この学習指導要領の目的である「生きる力」の構成要素は、学力や体力のような認知能力だけではなく、非認知能力（社会情動的スキル、ソフトスキル、性格スキルなどと呼ばれています）が含まれています（図表1参照）。この非認知能力について、例えば、（中央教育審議会会長、教育再生懇談会座長、日本認知科学会理事長などを歴任した）安西祐一郎慶應大学名誉教授が、「そうした未来に生きる子どもたちには、社会情動的スキルが今まで以上に大きな価値をもちます。」⁴と述べているように、子どもたちにとって非常に重要なスキルであるといえます。

子どもたちにとって至要な非認知能力の育成には、成育環境が密接に関係しているといわれており、学校、家庭、地域の協働が、継続され、さらに充実していくことを、切望してやみません。これからも、「子どもたちのための」さまざまな活動に、ご理解とご協力を、何卒、よろしくお願いいたします。

図表1 生きる力と非認知能力³

	能力の要素	生きる力
認知能力	①基礎学力	
	②基礎的な知識・技能	●
	③専門性・専門知識	
非認知能力	④問題解決力	●
	⑤批判的思考力	
	⑥協調性	●
	⑦コミュニケーション力	<●>
	⑧主体性	●
	⑨自己管理能力	●
	⑩自己肯定感	<●>
	⑪実行力	
	⑫統率力	
	⑬創造性	<●>
	⑭探究心	●
	⑮共感性	●
	⑯道徳心	<●>
	⑰倫理観	
	⑱規範意識	<●>
	⑲公共性	<●>

※<●>の要素については提言には記載がみられないが、学習指導要領等をふまえ記載。
 ※④と⑤は認知能力に区分されることもある。
 ※「確かな学力：思考力、判断力、表現力」は、④問題解決力と判断した。

³ 一般財団法人日本生涯学習総合研究所「『非認知能力』の概念に関する考察」（平成30年3月27日）。

⁴ <https://www.blog.crn.or.jp/lab/10/13.html>